

質 問 者 宮 坂 千 尋

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 地域の魅力を活かしたマッシュパークの活用を	令和3年8月に開園されたマッシュパーク女川。
	海から遊びに来た生きものたちをイメージした「遊べるアート」は、子どもや子育て世代にとって感性を育む場所となっています。
	特に公園のシンボル「うみうしくん」。ウミウシは見た目の美しさから「海の宝石」と呼ばれており、飼育可能な生き物です。遊具で遊ぶほかに、命の大切さを学んだり、生物の生態を調べ海への愛着を深めるなど、地域の特性と関連付けた独自の強みを活かすことで、女川らしい魅力を引き出せるのではないのでしょうか。そこで伺います。
	(1) これまで議会でも、公園利用者の熱中症対策として「日かげ」が必要と課題が示され、執行部でも植栽やテント設置等の対応を行ってきたと思います。
	女川スタジアム付近に設置された、東日本大震災後に中村雅俊さんから寄贈された「オレンジハウス」。常時施錠管理されていて利用者がないと伺いましたが、海岸広場、特にマッシュパークの近くへ移設し、日中の公園利用者が休憩する場所として活用してはどうですか。

質 問 者 宮 坂 千 尋

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	(2) 女川は海に見えるまちづくりをコンセプトに
	新しいまちづくりが行われてきました。
	オレンジハウスを移設することで、公園利用
	者の休憩場所にとどまらず、いろいろな活用が
	できると思います。
	町の魅力の一つとして海は欠かせないもので
	あり、公園のシンボルとなるウミウシの飼育や
	生態の紹介、海の生きものの展示を行うこと
	で、子どもたちが海と触れ合って地域の魅力を
	感じ、ふるさと女川への想いを深める機会にも
	なると思います。海岸広場全体としての魅力を
	高め、多くの方に利用してもらうための活性化
	対策としてはどうですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 女川町の広報戦略について	自治体公式LINEは全国的に活用が広がっています。スマートフォンは、情報発信の即時性に優れており、災害時や緊急時には優位性をも発揮します。本町ではX（旧 Twitter）公式アカウントから情報が発信されていますが、LINEを提案する理由として、幅広い世代で利用者が多く、プッシュ通知の強みが最大限生かせることです。通知によって、ユーザーがアプリを使用していない状況でも、情報を通知することができ、開封率が高まります。
	町政一般、イベント、子育て、防災防犯情報など、欲しい情報を選んで受け取る利便性も良く、メリットが多くあげられます。
	鹿児島県和泊町の自治体公式LINEの活用例として、話題の大谷選手のグローブが届いたことや、期間を設けて町の図書館に展示されることが発信されていました。本町でも、イベントや企画が多いことから、緊急時に限らず、正しい情報を伝えることは町民のために必要なものと考えます。
	女川町公式LINEの運用、導入の検討について伺います。
	(質問の相手：町長・担当課長)